

平成20年度 明生小学校 研修計画

研究主題	響き合う ことば・からだ・こころ －演劇的手法を用いたコミュニケーション能力の育成－
教科領域等	全教科領域

1 主題設定の理由

- ・ コミュニケーションとは、お互いの違いと変容を前提とし、お互いの考えをすり合わせながらイメージを共有していく作業であり、双方向的なものである。相手と向き合い、相手が今、どう感じ、何を思い、何を考えているのかを察知し、対応する力が重要となる。
- ・ 自分が本当に感じていることを、自分の言葉で十分に伝える力も重要である。そのためには、身体の中で感じている言葉をそのまま届けようとする声を、お互いに受け止め、応え合う作業が欠かせない。
- ・ すべては、人との関わりの中で培われる力である。その意味においても、演劇的な活動は効果的である。また、演劇的な活動を通して培われたコミュニケーション能力は、学習にも直結する。
- ・ 子ども達の豊かな人間性を育み、子ども達の学び合う関係づくりを高める。

2 子どもにつけたい力

- (1) 自分の思いや感じを、自分の言葉で、自分らしく表現しようとする力。
- (2) その場、その時の状況に応じて柔軟に対応し、よりよい人間関係を構築しようとする力。
- (3) 共に学び合い、自らも学ぼうとする力。

3 本年度の指導の重点

- (1) 聞き合う関係づくり（相手の言葉を受け止めて「聞く」こと）。
- (2) しつとりと落ち着いた学校環境づくり。

4 具体的な方策

- (1) 教師が子どもを受け止めるしなやかな「からだ」をつくる
 - ・ 教師対象のワークショップを開催する。（講師：野村幸廣氏）
- (2) 創造的な授業づくり
 - ① 子ども達の「からだ」と「こころ」をひらく
 - ・ コミュニケーションゲーム、劇遊び、劇づくり等を計画的に取り組む。
 - ・ 表現ワークショップを実施する。（4～6年）
 - ・ 劇団員による演劇、専門家による音楽、美術作品などの鑑賞。
 - ② 学び合う関係をつくる
 - ・ 聞き合う関係づくりに取り組む。
 - ・ 学び合う活動の場をつくる。（協同学習、協同作業）
 - ・ 連帯感、一体感を感じる場をつくる。（群読等の集会発表など）
 - ③ 教師が共に学んでいく体制をつくる
 - ・ 授業研究を充実させる。（共有、協力、改善）
 - ・ 職員室での情報交換、チームワークづくりに努める。
- (3) きめ細かな学習指導と読書活動の推進
 - ① 基礎知識、基礎技能の定着
 - ・ 各教室でのきめ細かな学習指導
 - ・ 音読カード、計算カード等の活用（家庭との連携）
 - ② 読み聞かせ
 - ・ 担任による読み聞かせ（毎週金曜日）
 - ・ サプライズ読み聞かせ（月1回）
 - ・ ボランティアによる読み聞かせ（随時）。
 - ③ 読書活動の推進
 - ・ 学校図書館の利用促進
 - ・ 巡回指導員の活用
 - ・ 短時間読書（テスト後、作業後、集会后など）
- (4) 落ち着いた学校空間をつくる
 - ① 「朝の読書」の実施。（月～木）
 - ② 廊下の歩行、授業中の教室移動、教室でのテンションに気をつける。
 - ③ 学年、全校など集団が大きくなった場での速やかなクールダウンを図る。
- (5) 子どもたち自身が自身の成長を確かめる
 - ① ワークシート等の年間ファイリング（ポートフォリオ）
 - ② 家庭と共に子どもの成長を確かめる